

「すべての人が安心して暮らせる共生のまちへ」について



さいとう かずみ
齋藤 和美
議員

一括質問



動画でチェック

◆安全・安心な暮らしを守るために

Q もしもの時のあんしんカードの配布について。

A 今後は、福祉サービス事業所等の協力を得て、さらなる普及に努める。認知度を高め、あらゆる機会を捉えて広く周知する。

Q 冊子「障がい福祉制度のごあんない」の内容の充実やスピード感ある発行を。

A 今年度は、9月中の発行を予定している。基幹相談支援センターの内容も盛り込み、障がいのある方が分かりやすく使いやすい、見やすい冊子となるように、内容の充実や工夫を凝らしていく。

◆障がいのある方への自立に向けた支援体制について

Q 余暇活動や社会参加についての支援と仕組みづくりについて。

A 障がいのある方が豊かな生活を営むためには、余暇活動や社会参加がとても重要であり、活動を楽しみ、積極的に社会参

加していくためには、障がいのある方々を理解し、寄り添い、支えることが必要となる。仕組みづくりについては、提案のあった、いきいきサロンやゆったりサロンも含め検討を進めていく。

◆共生社会の実現に向けて

Q 障がいのある方への理解と共感について。

A 本市では、障がいのある方が小中学校等で講師を務める障がい者ふれあい事業の実施や、福祉ふれあいフェスティバルの開催等、障がいに対する理解を深めるため、様々な取組を行っている。また、本年4月から民間事業者にも義務化された、障がいのある方への合理的配慮についても各種媒体を通じて理解促進を図っている。

Q 福祉ボランティアの推進について。

A 市民の誰もが互いに尊重し合い、困っている時には自然に助け合える、そうした優しい地域共生社会の実現に向けて、市民意識の醸成も含めてしっかりと取り組んでいく。

目標とするまちの将来像
やまちづくりの考え方



うめだ としかず
梅田 利和
議員

一括質問



動画でチェック

◆小松市都市デザインの改訂について

Q 2040年ビジョンとの整合性について。

A 都市デザインは、まさに本市の基本構想に当たる最上位計画で、2040年ビジョンとともに今後のまちづくりの羅針盤となるもの。ビジョンで策定した6つの都市像やまちづくりの柱となる好循環の考え方を反映させている。

Q 「世界に時めく日本海側の拠点都市こまつ」を都市目標として設定した意図は。

A 国際空港と新幹線駅を有し、日本海側屈指の産業集積地である本市が、デジタル技術の進展で、よりボーダーレスとなる世界とのつながりを強め、そのポテンシャルを生かし、地方都市の発展をリードし続け、日本海側の拠点都市に成長するという思いを込めて設定した。

Q 人口目標10万人。重要指標として4項目掲げているがその意図と難易度は。

A 2030年以降、小松市の人口が10万人台を割り込むという推計がある。しかしながら、10万人都市という分かりやすいベンチマークを設定し、好循環のまちづくりによって、これを何とか実現させていこうと考えている。掲げた指標はいずれも高い目標であり、難易度が高いと認識している。

Q 小松市都市デザイン、2040年ビジョンにかける思いは。

A 空港と新幹線駅を有し、産業が集積、日本のよき自然と伝統が残る小松市であれば、ビジョンに近づくことで地方都市の衰退を克服し、東京一極集中の是正に寄与できると考えている。

市制100周年を迎える2040年においても、人口10万人都市であり続けるために、空港などの都市機能の拡充、さらなる産業創生や断トツの子育て政策、また教育改革などにも着手する一方で、ふるさと小松のよき資源を継承し、地方都市の発展に挑戦し続ける。

小松市民病院の本館 建て替えについて



むらなか ひろし
村中 洋
議員

一括質問



動画でチェック

◆小松市民病院の本館建て替えについて

Q 建設基本構想策定委員会のメンバー構成は。

A 医療関係者、学識経験者、市民代表、行政機関、病院職員から構成され、病院経営に見識と経験を有するアドバイザーも迎える。

Q 市医師会長は10年以内の建て替えを目指したいとしているが。

A 建設スケジュールは未定であるが、今年度策定の基本構想で検討する。

Q 市民や病院職員の意見を踏まえ、パブリックコメントなどで円滑な計画をするのか。

A 策定委員会・病院職員の意見の集約やパブリックコメントを実施。

◆小松市民センターの駐車場整備について

Q 公会堂の代替機能として、施設を同時に利用する場合の人数は。

A 最大利用人数は、約1,600人が見込まれる。

Q 駐車場整備で100台を見込んでいるが、同時利用で駐車が可能か。

A 最大利用人数を想定すると駐車場不足も考えられ、行事主催者側から相乗りや

近隣駐車場の利用について調整いただきたい。

Q 現在の駐車幅が2.3mでは狭い。大型バスの駐車スペースの確保は。

A 現在の駐車場は現状のままとし、整備する100台の駐車場は幅を2.5mとし、大型バスは事前連絡により乗用車のスペースを確保する。

◆建設業の経営健全化について

Q 労働力の安定確保や品質向上などから、債務負担行為や繰越制度を活用し、さらなる工事の平準化を。

A 年度末の工期の集中を避け、上半期の発注率目標70%に取組み、令和5年度から余裕期間制度も導入。

Q 工事書類の簡素化で働き方改革の推進は。

A 国・県では今年、工事書類スリム化ガイド等を策定。本市も来年度からの導入に向け検討している。

Q 建設現場に市職員が行かず、遠隔臨場での作業確認などの推進を。

A 令和5年度から実施体制を整え、試行要領を公開しており、今後も取組を推進する。

（株）コマツ創業者竹内明太郎物語、NHK朝ドラ、ぜひ映画・ドラマのロケ誘致を!!



かわさき じゅんじ
川崎 順次
議員

一括質問



動画でチェック

◆安全・安心の確保、どう市民の命を守っていくか

Q 全国各地で自然災害による被害が発生している。国民の命と生活を守る武道館1万人大会で、アルピニストの野口健さんは、「もし仮に日本が減じるとすれば戦争ではなく災害だ」と語った。自分の命を守るため、自助共助が必要ではないか。

A 共助では各町内会長等に、地区防災計画の作成や避難所運営訓練の実施をお願いしている。自助では、従来から自らの命は自ら守るという意識を市民の皆様を持っていただくよう努めており、広報9月号での備蓄呼びかけ、防災アプリ活用の周知をしている。

◆市民病院本館建て替えについて

Q 災害でも医療を止めないため、本館を免震建設にしたらどうか。災害等に強い病院を目指せ。

A 免震構造を含め構造形式の検証をし、建物の機能安全を確保していく。

◆上下水道管の耐震化について

Q 上下水道の耐震化をより一層進めよ。

A これまでも優先度、重要度を考慮し、耐震化を計画的に進めてきており、今後も持続可能な水インフラの整備を推進していく。

◆小松-仙台便の復活

Q 令和2年コロナで休止している小松-仙台便の再開を。

A 一日も早い定期便復活に向け、関係各所に働きかけていきたい。

◆映画やドラマのロケ誘致を!

Q 小松には魅力あるロケ地がたくさんある。レトロな栗津駅舎、遊泉寺銅山、（株）コマツ創業者竹内明太郎さん物語などいろいろな形が考えられる。NHK朝ドラなど撮影終了後には観光地として多くの人が訪れている。ぜひロケ誘致を。

A 竹内明太郎氏の出身地である高知県宿毛市と連携して、竹内明太郎氏を主人公とした、いわゆる朝ドラの誘致ができないかを考えており、その可能性を探っていきたい。市内には、ロケ地として適した場所が多数あり、ロケ地として選ばれるよう、各スポットの磨き上げを継続するとともに、広く発信し知名度を広げていきたい。

改めて小松の「観光」を考える



よしもと しんいちろう
吉本 慎太郎
議員

一括質問

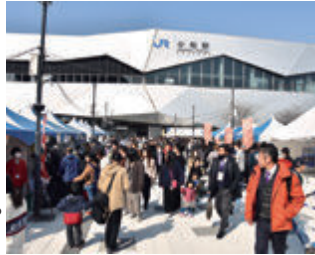


動画でチェック

◆北陸新幹線小松駅開業後の効果について

Q 本年3月16日の開業から半年、観光面において数字やデータで示される新幹線開業効果は。

A 小松駅周辺エリアの来訪者数は4月から8月において前年度比15%増。土産店の売上げも開業前の52%増となっている。



開業初日、賑わう小松駅前
半年経過して今後は？

Q 小松市が現在発信している観光コースの実績と成果は。

A 多種多様な観光コンテンツから、観光事業者や観光客個人が各々のニーズを組み合わせ、魅力的な旅行プランを作っている。

Q 観光者のニーズがより細分化されている中で、総花的ではなく、ジャンル・世代に応じた、よりディープな観光コース・スポットの考案・提供が必要なのではないか。

A こまつ観光物産ネットワークでは、ホームページ内でモデルコースを20件紹介

するとともに、ヘルスツーリズムなどのツアー造成や商談会への参加を通じて誘客促進に取り組んでいる。

◆多文化共生の更なる推進について

Q 過去最高となる小松市在住の外国人、その総人数と国籍数は。

A 8月1日現在3,230人が外国籍の住民で、国籍は人口の多い順から、ブラジル、ベトナム、中国、インドネシアとなっており、計42か国の方が生活している。

Q 外国人居住者が直面する医療・学校等、様々な課題に対して、どう対応しているのか。

A 生活指導や初期的な日本語指導を一定期間集中的に実施する「日本語初期指導教室（稚松小学校内れいんぼーる一む）」を設置し支援している。

Q 地域コミュニティにおける共生社会を推進するために町内会単位、校下単位でのセミナーを開催し円滑な関係を構築すべきではないか。

A 関係団体と連携協力し、市全体の多文化共生の推進に取り組んでいく。

地域公共交通の再構築に向けて



なんとう よういち
南藤 陽一
議員

一括質問



動画でチェック

◆地域交通政策室の設置について

Q その目的と今後の取組は。

A 持続可能な公共交通体系の再構築を目指し、地域公共交通システムづくりの推進体制を強化する。

Q 今後開催されるセミナーやワークショップの内容とその狙いは。

A 地域公共交通コーディネーターの人材を育成し、セミナー等を通じて、新しい交通の在り方検討の素地をつくっていく。

◆自動運転バス・小松市ライドシェアについて

Q 確立に向けた今後のスケジュールは。

A 自動運転バスは、2025年度以降の全区間レベル4に向けてプロジェクトを推進。ライドシェアは、今年度中に運行データ一元管理システムを構築し、タクシー優先配車の仕組みづくりを進める。

Q 確立された場合、小松版Maasにおける位置づけと役割は。

A 多様な交通モードを組み合わせ、持続可能な公共交通体系を構築していく。

◆地域内フィーダー系統の強化について

Q 月津・日末自家用有償旅客運送を小松版Maasに組み入れて、国交省の補助メニューの対象となるように取り組むかどうか。

A まずは地域協議会の補助金の活用をお願いしたい。本格運行の際には、国庫補助金等の活用も進めていきたい。

Q 路線バス月津線を見直し、月津・日末自家用有償旅客運送を、IRいしかわ鉄道栗津駅に接続させる実証実験を行ってはどうか。

A 地域交通事業者、行政等が連携しながら今後の在り方を検討。

Q 地域公共交通の再構築に向けては、南北の幹線はIRいしかわ鉄道、東西の主要施設を結ぶ幹線は路線バス、地域内を細かく回るフィーダー系統はライドシェアと考えるが、本市の所見は。

A 同じ思いである。IRいしかわ鉄道を幹線とした体系の構築は、地域公共交通を再編する上で重要な方策であると考えている。

大倉岳高原スキー場のグリーンシーズン活用について



ふかた ひろとも
深田 博智
議員

一括質問



動画でチェック

◆現状と課題について

Q グリーンシーズン活用状況は。

A 星空観覧会、大倉岳高原まつり、トレイルラン大会、パラグライダースクールなどが開催されている。

Q グリーンシーズン活用に向けた現状の取組は。

A グリーンシーズンにおける活用を見据え、昨年度ホットハウスのインターネット環境整備を実施。

Q グリーンシーズン活用に向けた課題は。

A スキー場に水道施設がなく、安定した水の確保が困難なこと、イノシシ、熊等の野生動物に遭遇する危険があること、希少種である猛禽類への配慮が必要であること、ホットハウスへの一般車両のアクセスの難しさ等が課題として挙げられる。

◆今後の取組について

Q 今後、グリーンシーズン利用促進に向けた改修は。

A まずは安全・安心なスキー場運営に必要な改修を優先的に行っていくことが重要。ただ、近年の積雪状況を踏まえると、グリーンシーズンの活用は重要なテーマであると捉えており、地元町内会や指定管理者等と検討する場を設けていきたい。

また、尾小屋地区の個性的価値を再構築し、持続する地域づくりを検討する尾小屋鉱山資料館周辺持続活性化構想委員会においても、大倉岳高原スキー場の通年利用について議論していきたいと考えている。あわせて、グリーンシーズンにも活用することについて広く周知するため、情報発信の強化にも取り組んでいく。

さらにはグリーンシーズンの活用を進めている他のスキー場の調査を行うとともに、年間を通じた施設活用についてサウンディング型の市場調査を行い、柔軟かつ大胆な発想で今後の大倉岳高原スキー場の在り方を探っていきたい。

北陸新幹線小松駅開業後の観光資源の磨き上げ



かたやま しゅんじろう
片山 瞬次郎
議員

一問一答



動画でチェック

◆観光資源の磨き上げについて

Q 小松城の文化的価値をブラッシュアップする考えは。

A 整備予定の未来型図書館では、博物館や図書館が所蔵する小松城や城下町、町人文化の資料を生かし、その歴史や魅力を体験できる展示や企画を検討する。

Q 歴史的資源活用の観光まちづくりは。

A 観光交流センター「Komatsu九」などを拠点に、市民や民間団体・事業者と連携し、まちなかの賑わいづくりに取り組んでいく。

Q 食文化ツーリズムの推進対応は。

A 民間事業者による魅力的なコンテンツやプランの造成を期待し、様々な機会や媒体を通じた情報発信について連携していく。

◆HPVワクチン接種について

Q 子宮頸がんワクチンのキャッチアップ接種の現状は。

A 令和6年7月末時点で、対象者5,502名のうち、1回目の接種を完了した方は2,282名（接種率41.5%）、2回目は2,045名（接種率37.2%）、3回目は1,717名（接種率31.2%）である。

Q 今後の検診率向上と男性の接種支援は。

A まずは定期接種の制度化が進むよう、国や県に働きかけていく。

◆特定空き家等の状況

Q 空き家数と空き室・空き地バンクの登録状況。

A 令和6年8月末現在、空き家の累計登録件数は599件、成約件数は557件、空き室の累計登録件数は139件、成約件数は137件、空き地の登録件数は5件、成約件数は1件である。

Q 空き家数と管理不全空家・特定空家の状況。

A 空き家件数は平成24年度1,504件、平成27年度2,077件、平成30年度2,218件、令和3年度2,011件と推移し、管理不全空家は今年度約20件の苦情相談があり、特定空家は現在14件ある。

◆老朽危険空き家対策について

Q 特定空き家に指定される前での空き家活用や除却への対応は。

A 補助制度の充実を図り、流通の拡大を推進していく。